

大地震

対応マニュアル

緊急時パーソナルメモ

氏名 _____

学籍番号 _____

学部 _____

学科 _____

緊急連絡先 _____

住所 _____

電話番号 _____

持病 あり なし あり 常用薬 あり なし

アレルギー あり なし

自宅近くの避難場所 _____

家族との待ち合わせ場所 _____

家族と共有しておきましょう

延岡市の想定規模

南海トラフ巨大地震では、東日本大震災以上の被害が予想される

津波の到達時間 18分
津波の高さ 14m

緊急避難アイテム

飲料水(2Lペットボトル数本)
非常食(インスタントラーメン、缶詰、乾パン)
救急セット(消毒薬、三角巾など)
簡易食器、衣類(防寒具)、ロープ
携帯ラジオ、電池、現金(10円玉も)
懐中電灯、ローソク・マッチ・ライター
ビニールシート、雨具、ナイフ
ハサミ、タオル、洗面道具(旅行用で可)
ウェットティッシュ、ビニール袋
携帯電話用バッテリー、筆記具 等

避難行動

臨機応変に地震の規模、発生時間、交通機関の状況、自身の体調、体力により判断する

危機管理

日頃から危機管理の意識を高める

三日分の水と非常食

- 避難場所の確認
- 家族との連絡方法、待合わせ場所の確認
- 災害用伝言サービスの確認と登録
- 転倒防止対策や非常用品等の確認
- 具体的な情報収集手段の確認

家族への連絡方法

災害用伝言ダイヤル

災害の発生により、被災地への通信が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です

NTT災害用伝言ダイヤル(171)サービス

171をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって、伝言の録音・再生を行う

171

ガイダンスが流れます

自宅の電話番号入力

伝言の録音

伝言の再生

市外局番 _____ 電話番号 _____

携帯各社の災害伝言サービス

NTTドコモ au ソフトバンク ウィルコム



NTTドコモ… <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
au……………<http://dengon.ezweb.ne.jp>
ソフトバンク…<http://dengon.softbank.ne.jp/>
ウィルコム…<http://dengon.clubh.ne.jp>

災害情報

情報の重要性！ デマに惑わされない

防犯・防災情報メールサービス



基本方針

1. 自分の命は自分で守る
2. 知恵と勇気で困難を克服する
3. 絶対にあきらめない

安全行動基準

- まず身の安全
- あわてて外に飛び出さない
- むやみに動かずパニックにならない
- 机の下、コンクリート壁際に避難する
- 非常口やドアを開けて出口を確保する
- 落下物からバッグなどで後頭部を守る
- 最新で、精確な地震情報を入手する

大学への連絡方法

大学は、大地震が発生した場合、学生の安否確認を行います
落ち着いたら大学へ安否を連絡すること

学内の場合 安否報告カード

避難後、身の安全確保ができた時に「安否報告カード」に所定の事項を記入し、所属学部、チューターに提出

学外の場合 「ユニバ」「電話」「FAX」で安否報告

ユニバーサルパスポートによる安否確認で大学へ連絡
(ユニバーアンケート→安否確認回答)

大学の連絡先

〒882-8508 延岡市吉野町 1714-1

代表 0982-23-5555 FAX.0982-23-5530

庶務課 0982-23-5531 FAX.0982-23-5530

学生課 0982-23-5576 FAX.0982-23-5570

教務課 0982-23-5572 FAX.0982-23-5570

地震発生

緊急地震速報

海岸線・河川から離れる

津波襲来

高台、避難所、高層ビルへ

避難目標

愛宕山、城山、今山、
新大瀬橋から上流を目指す

遠いところより
高いところへ

最終避難先

大学へ避難する

家族への安否連絡

学校への安否連絡

学内

校舎…倒壊のおそれなし
大学…津波のおそれなし

学内非常放送

- 冷静になり、落ち着く
- 危険物(キャビネット・薬品棚)から離れる
- 安全を確保して、揺れがおさまるのを待つ

揺れがおさまったら周囲の観察

- 火災になったら 大声で知らせる
- 初期消火活動
- 負傷者の救助

- 非常放送や教職員の指示に従って
落ち着いて行動
- 避難通路の確保 階段で避難
(エレベーターは自動停止で使用不可)
- 避難したら、協力して救出・救護にあたらう
- 逃げ遅れた人や行方不明の人がいるときには
すぐに連絡する
- 身体に障害のある人や、高齢者の安全を確保する
- グランドへ避難

無理して帰宅せず
大学にとどまる

大学への市民の
避難が始まれば、
自主的に支援に
従事する

※大学は、海岸線から7キロ離れ、グランド海拔45m

アパート・自宅

日頃

- 就寝時
 - ・就寝するときは、転倒のおそれのある家具・冷蔵庫などからの圧死を防ぐ
 - ・懐中電灯、靴を準備する
- 確認事項
 - ・近くの高台や避難所、高層ビル
 - ・周囲の危険な箇所、火災が発生しそうな場所
 - ・家族との連絡、待ち合わせ場所

災害の発生

初期行動

- 家具・冷蔵庫など、倒壊するものから離れる
- 落ち着いて、素早く外に脱出する
- 散乱したガラスに気をつける(靴をはく)
- 頭・後頭部の保護(衣類、バッグ、本の活用)
- 熱湯の入った鍋から離れ、やけどに注意
- ガスは安全装置に頼る(震度5で自動消火)
- 電気は、慌てず、地震がおさまってからブレーカーを切る

避難行動

- 自転車、バイクをなるべく利用する
- 渋滞がなければ自動車を利用する
- 陸上にあがった津波は、短距離の選手が走っても逃げるできないくらいの早さ

大学へ避難

延岡市 MAP



外出先

安全な場所へ避難する
被害状況を正しく判断する

ショッピングセンター

イオン

商品の陳列棚、吊り天井、照明
落下物、看板、外壁に注意

地下街

冷静に行動し、出口に殺到しない
停電になったら、非常灯、誘導灯が点灯する
60mの間隔で非常口が設置されている

自動車 バイク通学

安全な道路脇に駐車し、揺れが
おさまるのを待つ

徒歩避難

ブロック塀、自動販売機、
電柱、ビルの落下ガラスなど
から離れる

途中で通行できなくなれば、鍵を
つけたまま、邪魔にならないところに
駐車し、車検証をもって逃げる

避難所に行くか、大学に
避難するか、帰宅するか、
自分で判断する

避難途中は警察・消防の
指示に従う

避難3原則

- 想定にとらわれるな
- 最善を尽くせ
- 率先避難者たれ

最大の敵は己 避難しない自分